

研究会（全体会）

幼稚園 4 歳児クラス公開保育・6 年生授業（平成 28 年 6 月 16 日実施）記録

幼小 子どもの主体性を育む幼小の円滑な接続の在り方を探る
～幼児と児童の数的感覚を中心に～

小 主体的に学び続ける子の育成
～実態に合った算数的活動の充実を通して～

1 グループ協議より

幼稚園公開保育

○子どもの様子から

- ・参観者の目を意識して張り切る姿が多く見られた。
- ・いろいろな場での数的な芽生えの姿が見られた。

○指導者の関わり方

- ・見守りや安全についての指導を優しく声かけしていた。
- ・トラブルの仲裁の声掛け。十分に子どもの思いを受け止めきれていたか？



小学校 6 年生の公開授業

○子どもの様子から

- ・200 分の 1 をどのぐらいと捉えていたのだろうか？量感は？
- ・歴史学習との関連で大仏とピラミッドの長さを求めるというのは面白い。
- ・下級生に実物の長さを伝えたいという思いをもっていたのか。
- ・長さを測るところが多すぎたため、考えを練り上げる時間が足りなかった。
- ・実物と、絵の長さの関係が本当に分かっていない子もいたのでは。
- ・グループ学びで、分からないことを率直に言い合える雰囲気がいよい。



○指導者の関わり方

- ・みんなの中で言いたいことを言い合える雰囲気、子どもと先生、子どもと子どもの関係づくりが大事である。
- ・子どもの思いを十分に受け止めることで、安心して授業に臨めるようになる。
- ・子どもが今何をすればいいかを分かりやすくする工夫が多く良かった。



2 指導助言

幼稚園公開保育

○子どもの様子

- ・2階の遊びが楽しそう。電車好きの3人の思いがどんどん広がっていく。電車ごっこに適したものがあるともっと遊べたのでは？
- ・箱をテープでつなぐ遊びの中で、テープの長さに気付いたり筒の太さを感じたりしていた、二人の思いがつながって何かしらを作ることを楽しみつつ、容積や太さ、入る、入らないなどの気づきがあった。
- ・マットつなぎ、ぴったり組み合わせられれば、すっきりし、達成感を得られる。

<その他の数的な学びの芽>

- ・ピンクと黄色のフォークとスプーンを並べる活動
- ・ティッシュ箱と輪ゴムでの楽器作り
- ・カレンダーのシールを数える
- ・積み木の箱詰め

保育の見方～エピソードを大切に～

靴を投げたり、順番を守れなかったりした子を「あの子は何がしたいのか」「どうすれば遊びに向かえるのか」という見方で見る。

A児は、とびばこを離れて女の子と猫や怪獣になって遊んでいた。友だちがちょっかいを掛けに行くと、けんかになり、A児にたたかれたと担任に訴え、顛末を知らない担任は、「言うことない？」と謝るよう促した。A児は、「だって、〇〇ちゃんと遊びたかったもん」としか言えない。自分の思いを引き出せるかかわりをどうするかが課題。ちょっかいを掛けるのは、かかわりを求めている姿とみて、あす以降の遊びの中でどうつないでいくかを考えていく。

○指導者の関わり方

- ・雨で変更はあったものの、子どもたちがしたいことをどこまで把握できていたか？
- ・教師の体の向きひとつでも子どもを見る視野が変わる。
- ・子どもが楽しめる環境としてどうだったかを考える必要がある。
- ・一本歯下駄を良くも悪くも丁寧に寄り添っていた。子どもの思いと必ずしも一致していなかったかもしれない。
- ・けんかの仲裁の場面で、時間はかかっても子どもの思いを丁寧に受け止めていく必要があるのではないか。
- ・子どもの一つ一つの行動に目をくばり、コンタクトをとっている。

～年長児の保育の中で先生がしていること～

「先導的役割」 子どもの思いを取り入れつつ、ばらばらの子を集めてひとつに・・・

「促進的役割」 「〇〇さん待っているよ、頑張って。」の声かけ。

「伝達者的役割」 時間が来ていることを知らせる。

「同行者的役割」 「間に合う、間に合う…」

→全ての子に目を配り、その子その子に応じた声をかけていく。

小学校6年生授業

○子どもの様子

- ・昼休みから楽しそうな雰囲気。授業前にゲームを楽しむことで、リラックスして授業に臨める。
- ・グループ学びで、子どもたちが、関心をもって自分なりに取り組む姿が見られた。
- ・学びに向かう基盤として、先生と子どもの関係がある。子ども自身に知りたい、学びたいという思いがあった時に学びは起こる。
- ・お互いの顔がよく見える机の配置がよい。



○指導者の関わり方

- ・「生き生き授業法」・・・先生の目標を掲示し、みんなで頑張る雰囲気作りをしている。
- ・発言した子のネームプレートをはることで全員発言を促す。
- ・何か面白いネタは…と常に面白い授業づくりを考えている姿が素敵。だからこそ、学級づくりがうまくいく。
- ・先生の子どもへの投げかけ方がうまい。「どんな作戦で行く？」と尋ねることで、子どもの思考を促していた。
- ・子ども一人一人の発言を丁寧に拾っていてよかった。最後に「分かった！」のつぶやきがあった。
- ・子どもたちに選ばせたり、考えさせたりしたのが良かった。主体性には、「必要感」「達成感」「友達との関わり」が大事という考えは幼稚園に通じる。
- ・子どもの気付きを拾い、学びをつないでいく。机間指導をしながら、子どもの学びをつなぐコーディネートをしていく。子どもに共感していく姿勢が大事。
- ・正解が一つだけのときのグループ活動というのは難しい。グループ活動の良さは、いろいろな意見が出てくること。今日の課題では、難しい。
- ・つまずきや困りについて、振り返りにどう書かせるかが課題。
- ・子どもたちのつぶやきを生かしたやりとりが絶妙。先生との人間関係があってこそその姿。
- ・たくさんのアイデア、子どもたちを大切に作る姿勢がたくさん見られた。

